

平成 30 年度第 2 回高松圏域自立支援協議会全体会 会議録

日時：平成 30 年 11 月 8 日（木）13：30～16：00

場所：香川県青年センター大会議室

第 1 部 13：30～14：25

1.開会

2.高松市障がい福祉課長あいさつ

3.自己紹介 30 機関 44 名出席（欠席 1 機関）

4.部会活動報告

【身体障害者支援部会】

今月から事業所用 62 カ所と、その事業所を利用する当事者用 400 部のアンケートを配布し、分析と課題の抽出を下半期実施の予定。

【知的障害者支援部会】

短期で取り組むテーマとして、余暇（特に大人）について検討し、今年度中に余暇資源資料集の作成と、2/12 午前に相談支援専門員を対象とした余暇支援研修会を実施予定。長期取り組みで考えている地域移行についても、毎回の部会で検討する時間を作り進めていきたい。

【発達障害部会】

「困窮」と「高校」をテーマに、事例検討から課題の抽出を行っている。下半期はこれを継続し、次年度はここから出てきた課題を基に支援者に対する研修など検討していきたい。

【医ケアプロジェクト】

「元気な医ケア児」について、例えばインシュリン注射自体は自分で打てるが、血糖値を測り、必要な単位を判断することが難しい知的のケースがある。本人の状態（動ける）に合ったプログラムがある事業所には看護師がおらず受け入れできない、といった課題がある。

【中核拠点・地域拠点合同会議】

上半期の取り組みとして、相談支援部会との連携による相談支援専門員の基本姿勢に関する研修の実施、障害福祉サービス利用者の緊急時の支援に対する検討、各地域の関係機関に対する基幹相談支援センターの周知活動等があげられる。下半期については、特定相談支援事業所に対する支援として中核拠点で開催する GSV への参加支援、相談支援事業所立ち上げの際の相談を中核拠点で行えるようにすること、緊急時の受け入れのみならず体験の機会・場の創設を視野に入れた地域生活拠点の将来ビジョンを関係者間で共有すること等。

5.質疑応答

【地域の学校における医ケア】

医ケアが必要な子どもが地域の学校に通う際、看護師がいなければ家族が医ケアの対応をすることになるのか、教員が対応することはないのか、合理的配慮の面でできる対応はないか
→通常クラスの医ケアの子どもの事例で、宿泊学習の際に食材の温めとチューブの洗浄を教員が対応したことがあった（注入自体は本人ができる）。教員で医ケアの対応はできないため、医ケアの子どもが地域の学校に通う際には親の付き添いが条件になる。合理的配慮がしきれない現状がある。

【余暇とは】

余暇支援の取り組みを検討されているが、「余暇」をどのようにとらえているのか。

→自由な時間をどうするかということで、自宅での過ごし方や〇〇教室など、資源集についてはインフォーマルなものを中心にまとめていきたい。

【身体部会アンケートについて】

アンケートからどのような課題が明らかになると想定しているか

→ピア・サポートや地域移行に関する取り組みが不十分であるとの認識があり、ここが結果からも明らかになるのではないかと考えている。防災に関する当事者の意識もアンケートで確認したいところである。

【緊急時について】

「障がい者緊急時支援事業」は事前登録のない緊急に対しても相談は可能か。

→本来緊急時に備えて緊急時対応プランを作成して登録をしておくものだが、事前の登録者のみが利用できるものでもない。状況に応じて相談するものだと思う。

【就労定着支援事業について】

就労定着支援事業の圏域内での状況について教えて欲しい

→10月以降2か所で開始している。ナカポツとの業務の線引きはまだはっきりしておらず、行政に指示を仰いでいる。

第2部 14:35～15:55

1. こども部会の取り組みと高松市総合教育センターの取り組みについての報告

【こども部会】

下半期は、12/13 開催予定の児童発達支援・放課後等デイサービス連絡会の場を借り、グループワーク（情報提供書の扱い等学校との個人情報のやり取りや、学校に子どもを迎えに行く際の服装や名札の着用等）を通じて事業所職員との学びを持つ予定。また「こどもの相談支援」について研修を行う案もあり、こどもの発達についての知識や、母親への寄り添いについて相談支援専門員を対象に研修できればと考えている。

【高松市総合教育センター】

教育相談担当の業務は不登校への対応が多い。スクールソーシャルワーカーは現在13名で23校の中学校に配置されている。1つの中学校区に1～4校の小学校があり、要請があれば担当校区の小学校のケースにも関わるが、なかなか時間が割けない現状がある。8/1の研修会は昨年からはまったもの。今回基幹センターができたということで地域拠点の相談支援専門員にも参加いただき、150～160名ほどの会になった。前半は講義を通してそれぞれの役割や福祉サービスについて学び、後半は中学校区に分かれて顔合わせの情報交換を実施した。

2. 「教育と福祉の連携について」のグループワーク

架空事例を基に6つのグループに分かれ、自己紹介の後ディスカッションを行っている。